



# いきいき北っ子

## マシュマロテスト

最近、幼児教育に注目が集まっています。それは幼稚園や保育園等で保護者が幼児教育を真剣に学んでいるからです。

さて、幼児教育で有名な「マシュマロテスト」というものがあります。

マシュマロテストとは、1960年代後半から70年代前半にかけてスタンフォード大学のウォルター・ミシェルが実験、追跡調査をしたものです。

次のような問題です。

(4歳児に) マシュマロを1つ見せ、20分間がまんできたら、マシュマロを2つあげよ。(そうやって大人は部屋を出ていきます。)

一人残された幼児はどうするでしょうか？

結果は、次のとおりです。

◎ 1/3の幼児→20分間がまんした。

▲ 2/3の幼児→20分間がまんできず食べてしまった。

では、それぞれの幼児は、20分間どんな様子だったのでしょか。

### ◎ 20分間がまんした幼児の様子

→マシュマロから視線をそらしたり、テーブルの隅へ行ったり、わざと座り込みをしたりしてマシュマロから遠ざかった。

### ▲ 20分間がまんできず食べてしまった幼児の様子

→マシュマロを凝視したり、匂いをかいだり、さわったりしているうちに食べてしまった。

20分間がまんできた幼児は、4歳なりに欲望の対象に負けないよう、自分なりに対策を考え行動したことがわかります。この力は、学びに向かう力(非認知能力)の自己統制(がまんする力)です。

さらに両者の追跡調査を大人になるまで行った結果、20分間マシュマロを食べずがまんした幼児は次のような結果が明らかになったそうです。

- ・学力が高い傾向にある。
- ・ストレスにうまく対処できる。など

つまり、幼児のときに欲を制する力を身に付ければ、人生をよりよく過ごせる可能性が高いということが明らかになったのです。

本園では、幼児期での自己統制(がまんする力)を保護者の皆様と連携しながら慌てず確実に育てていきたいと考えております。ご理解、ご協力をお願いいたします。